



199号

2014 / 12 / 1

日中文化交流市民サークル「わんりい」
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli-san.com/>
Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp
◆「わんりい」HPのアドレスが上記になりました。



「モダン的なディスプレイ」 2014年9月7日 中国瀋陽興隆大奥莱 (MIX DOLCE & GABBANA OUTLET) 店*) 撮影：崔貞
中国瀋陽に進出した、ヨーロッパのブランド店・ドルチェ&ガッバーナ店のモダンでおしゃれなディスプレイがひとときわ目を引きました。
著しく発展し続ける故郷の新しい一面を見ることができました。

*) 2013年瀋陽でオープンした都市型アウトレットモール。ホテルとビジネスオフィスも入った総合一体型
ショッピングモールで、ドルチェなど海外の有名ファッションブランドの専門店が50以上入っている。

皆さんは、北京市に対してどんな印象をお持ちでしょうか？ 私は係わりを持つ前、北京に対して、「乾燥した街」、「埃っぽい街」と言う印象を持っていました。

住み始めて直ぐに実感したことは、北京の空気が、東京と比べて非常に乾燥しているということでした。先ず驚いたのは、食べものの腐敗が起こり難いことでした。パンや万頭など、保管が悪いとすぐ固くなるけれど、カビが生えるということはありませんでした。また、春の短い北京は、6月に入ると直ぐにジリジリと強烈な日差しが照りつけるようになりますが、気温がどんなに高くても、日陰に入ると汗がスッと引いて爽やかさを感じるのです。北京で生活を始めて、初めの3、4年は、この夏の爽やかさを大いに楽しみましたが、そのうちに北京の気候が少しずつ変わって来ました。

北京の雨といえば、夏の夕方30分ぐらい、文字通りバケツをひっくり返したような夕立があり、それ以外、雨らしい雨は殆ど降りませんでした。ところが2006、7年ごろから、時折、朝からシトシトと降る、およそ北京らしくない雨を経験するようになりました。そしてその頃から、夏の爽やかな暑さが少なくなり、東京と同じようにムシムシする日が多くなりました。その時になって、湿度が体感温度に大いに関係していると実感しました。

「埃っぽい街」と言う点では、春先の黄砂の時期を除いても、砂埃が多いように感じて、「やっぱり」と思いましたが、これは未舗装の道路や空き地から出る土埃のようで、街の整備が進むと随分少なくなりました。

この「乾燥」と「埃っぽさ」から、私は、「北京は水の少ない街」と勝手に思い込んでいました。それまでも新聞紙上で、北京の水不足のニュースを見たりしていたので、この乾燥と埃っぽさもそのせいだと思ったのです。ところが、北京の水不足は飲料水不足のことだったのです。この飲料水不足の解決には、中国政府が「南水北調」という、明代の大運河工事同様の一大プロジェクトを展開し、解決に向かっ

ているようです。

それなのに、私は単純に、北京は水が少ないのだと思ったのですが、これは大きな間違いでした。北京には水がいっぱいありました。北京には大きな公園が沢山ありますが、その公園の殆どに大きな池があります。北京を旅行された方は皆さん、故宮の近くの北海公園を見て、街の真ん中に、あんな大きな湖があることを驚かれますが、北京の水はあればかりではありません。北京北西の郊外、頤和園の昆明湖は有名ですが、町の中心でも蓮花池公園、紫竹院公園、陶然亭公園などに、日本人の感覚で言えばとても大きな池があり、水を満々と湛えています。

特に中央電視塔近くにある玉淵潭公園の八一湖からは、市内を走る運河を辿って、頤和園の昆明湖まで、1時間足らずの船旅を楽しむことができます。八一湖から出発すれば、頤和園の入場料分高くなりますが、南門から昆明湖の中へ舟で入ることが出来ます。頤和園には何度も行ったから入らなくて良いという方は、船賃だけ払って、園に入る手前の頤和園南門で降りて、バスで地下鉄の最寄り駅まで行くことができます。勿論、逆に頤和園南門から、玉淵潭公園八一湖まで行くことも出来ます。高層ビルが建ち並ぶ北京市街地を、舟に乗ってゆったりと移動するのはなかなか良いものです。

但し、この船、30分ごとに出発する予定時刻表はあるのですが、乗客が少ないと運休するので要注意です。大分前ですが一度、頤和園から出発する友人と八一湖で落ち合う約束をしたことがあります。出発予定時刻に所要時間を足して、待っていたのですが、一向に現れません。携帯電話も無い頃で、連絡が取れないまま2時間近く待ちました。やっと落ち合えた友人に聞くと、乗った舟は、乗客が少ないからと出発しないで1時間半も待たされたのだそうです。文句の一つも言いたくなる状況でしたが、二人とも夫々に気を揉んでいたもので、無事会えた事だけを喜んで終わりにしました。

私の調べた諺・慣用句 35

顰みに倣う

三澤 統

人は他人の真似をしたがるものですが、ただやみくもに真似をすれば良いというものでもなく、やはり身の程をわきまえた、身の丈にあった真似でないと、却って滑稽で人に笑われたり、不快感をあたえたりしてしまうかもしれません。

このようなことを表わしたものに、あまり一般的ではないのですが、“顰みに倣う”という慣用句があります。“顰み”は(眉などを)ひそめること、“倣う”は

真似することです。

今回のエピソードはこの慣用句のもとになった中国の故事で、絶世の美女と器量に縁なく生まれた娘のお話です。

辞書の説明はそれぞれ次のようになっています。

▲小学館 デジタル大辞泉：

「**顰みに倣う**〈莊子¹⁾・天運〉から、善し悪しも考えずに、やたらに人のまねをする。また、他人にならって物事をするのを謙遜するという言葉」

対応する中国の四字成語に“**东施效顰**”があります。

▲小学館 中日辞典：

「**东施效顰**dōng shī xiào pín 西施²⁾の顰みにならう。身の程を知らずにむやみに他人のまねすること」

この成語の出自は〈莊子・天運篇〉です。

越国に名を“施”という絶世の美女が居り、若耶川の西の岸に住んでいましたので、“西施”と呼ばれていました。一方若耶川の東の岸にも“施”という名の、西施の器量には及びようのない娘が住んでいました。人々はその娘のことを“東施”と呼びました。

東施は自分の容貌が悪いことを自覚していましたので、少しでも美しく見せようと、美しい娘の服装や化粧、姿態のまねをすることに大変関心がありました。中でも美女の西施は絶えず東施の手本として見習っていました。

ある日、西施は病気になりみぞおちが痛くなったので、外を歩くときに両手で胸元を押え、まゆを顰めておりました。道行く人は彼女のこの様子を見て、誰もが彼女に同情すると同時に、その姿態もまた相変わらず美しいと思いました。丁度そこに東施が通りかかって、西施のその様子を見たのです。東施は西施の様子を観察しながら、その時の西施の姿態や動作を記憶にとどめました。

彼女は地元に戻ると直ちに西施のしぐさをそのまま真似をして両手を胸元に当て、まゆを顰めて歩きました。道行く人々は東施のこの様子を見て、何か異様な者がやってきたのかと思い、家へ逃げ帰って隠れてしまいました。

東施は西施がまゆを顰めても美しいことは分かっていたましたが、何故まゆを顰めても美しいのかは、分かりませんでした。西施はもともと美しいので、たとえまゆを顰めたとしても人々は美しく感じたのでした。

それに引き替え東施の容貌はもともと不器量なので、まゆを顰めたりすると、ますます醜くなって、人々がびっくりして逃げてしまったということに気がませんでした。

〈注記〉

1) 莊子(書物)：(そうじ、そうし)は、莊子(莊周)の著書とされる道家の文献。現存するテキストは、内篇七篇・外篇十五篇・雜篇十一篇の三十三篇で構成される。

(ウィキペディアより)

2) 西施：中国四大美人(西施、王昭君、貂蟬、楊貴妃)の一人。春秋時代の越王勾踐(こうせん)は復讐のため呉王夫差に西施を献上した。呉王はその色香に迷って政治を怠り、越に滅ぼされた、と言われている。



イラスト 満 柏

前回は、卞和は希世の玉を潜ませた原石を歴王に献上しましたが、私心を持つ玉工たちの讒言によって歴王は卞和を信用せず、卞和は刖刑を受けて左の足を失ってしまいました。

その後、幾年か過ぎて歴王が没し、武王が即位しました。「今度こそ王は私を信じてくれる」と卞和は思い、再び親友の新成に伴われ、杖にすがりながら、原石を牛車に載せて上京しました。

初めて石を献上した一回目の時と違って、村の人たちはそんな卞和の行動を喜ばず、むしろとても心配しました。新しく即位した武王は先王の歴王よりも気の荒い君主だという噂が国中に流れていたからです。

そして結果は村民たち心配した通りになりました。卞和は前回同様に門衛の兵士に玉の話をして王に告げると宮廷に入ることを許されました。そして武王の前で、運んできた原石の中に類まれな宝玉が潜んでいることを説明しました。しかし、今回も武王は玉工たちを呼んでその石の中に宝玉が潜んでいるかどうかを評価するように命じました。しかし、玉工たちは皆、卞和が運び込んだ石はただの石だと王に告げました。王は卞和が詐欺の罪を再び犯したとして今度は右の足を切ってしまいました。

親友の新成は都に旅立つ前から最悪の結果もありうることを覚悟していましたが、血止め、痛み止めなどの薬を持って来ていました。右の足も切られ、血にまみれた卞和を抱いて泣きながら薬を塗りました。

結局、二人は怒りと悲しみに打ちのめされながらも故郷へ帰り、卞和は半年の間、療養に努め傷はやっと癒えましたが、両足を失って、二本の杖を支えに日々を送るようになり生活は一層貧しく厳しくなり

ました。それでも卞和は国のため宝物を献上したいとの思いを持ち続けていました。暇があれば石を見つめて嘆きつつ語りかけました。

「お前は、何という素晴らしい石だろう。私にはお前の中で眠っている玉の素晴らしさが見える。今はそのことを知っているのは私だけだ。けどさ、いつかきっと私以外にもそれを知る人が現れると信じている。我慢して待っていようね」

そのまま、50年の歲月が経ってしまいました。卞和の頭は白髪に変わり、腰も曲がり老人になりました。

ある日、卞和の耳に良いニュースが聞こえてきました。武王が没して、新しく文王が即位しました。文王は「民を愛する英明な君主だ」と皆から言われているということです。卞和は、今又、原石を王に献上するかどうかを考えながら、今

までの悲しい出来事を思い出して原石を抱いて声をあげて泣きました。そして三日三晩泣き続けて卞和の涙は涸れ果て、終には目から血をながして泣きました。

この話を伝え聞いた文王は人を遣って卞和を尋ねさせました。

「世の中には刖刑を受け、足を失ったものはいくつもある。なぜお前はこんなに嘆き悲しむのか」

卞和は答えて言いました。

「私は足を失ったから悲しいのではありません。希世の宝石を潜ませている原石をただの石とかわられて陽の目を見ることないまま捨て去られているばかりか、国を思い、王の為を思ってその原石をはるばると宮廷に届けた正直な人間が不届き者として生涯汚名を着せられたまま今日を迎えていることが悲しいのです」

文王は卞和のもとに遣わせた使者からその報告を



イラスト 満柏

聞くと共に卞和にまつわる物語を聞いて考えました。そして、その原石が本当に稀代の玉を潜ませているのかどうかは石を割り開かないと分らないではないか、両足を失う危険を冒してまで二回も王宮に献上しに来たというのは必ずそれなりの理由があるだろう、是非きちんと究明したいと思いました。そこで卞和に石を持たせて都に連れてくるように命令を下しました。

卞和は再び古い友人の新成に「もう一回だけ自分の伴をして上京してくれないか」と助けを求めました。しかし、新成は卞和に問いました。

「私たちは既に老人になった。これからの日々はもう長くはない。宝物を大王が認めて褒美を頂けたとしても、この歳では無用物に等しい。万が一、以前のような目にあったら、今度こそお前は命を失うだろう。お前は三度目の危険を冒そうとしているのが分からないのか」

卞和が答えて言いました。

「生きている内に、私は自分の二つの思いを実現させたいのだ。まずはこの原石に潜んでいる希世の宝玉をこの無名の山里から世に出して陽の光の下で光り輝やかせたいのだ。このまま何もしないで見捨ててしまうにはあまりに残念なことなのだからさ。二つ目は卞和は詐欺師だという汚名を雪ぎたい。褒美など貰おうという考えなどさらさらしない」

そこで二人は三回目の上京をすることを決意しました。

都について順調に宮殿に上がり大王に面会しました。大王は、目の前の卞和の顔に不屈の気概を見てとり感動しました。そして、文王は歴代の大王のように玉工を呼んで彼等の意見を問うことなく玉工に命令を下して直ちに宮殿で石を割らせました。

宮殿には沢山の人がいました。石が割られると、石の中から氷のように真白い、明るい、七彩の何とも言えない眩い光りが放たれ、これまで誰も見たことのないような素晴らしい、宝玉になるばかりの素材が現れました。太陽に当てると、赤、黄、紫、緑などの様々な色に移り変わり、手で触れば、潤いのある、滑らかな優しい感触に心もまた優しい気持ちになってくるのです。

文王は卞和が言った通り、果たして希世の宝物を自

分の宝に加える事が出来て大変喜び、それを璧(薄い環状の形をして、真ん中に穴を開け、重大な祭器に使う)に加工させました。又、その璧を入れるため、有名な大工に、最上級の楠の木でケースを作らせ、ケースの表面に宝石や金を施して国の最高の宝ものとし、人の目にも触れないように厳重に納めました。

さて、卞和の念願がやっと実現しました。自分の汚名を雪ぎ、希世の宝物を世に送り出しました。文王は、褒美として卞和に上大夫の俸禄を与えました。またその忠心を讃えるため、この璧を「和氏璧」と名付けました。

実は、和氏璧には不思議なところがあるそうです。「和氏璧」の側にいると、冬には囲炉裏がなくても暖かく、夏は団扇を揺らさなくても、涼しく感じられるといわれます。そしてまた、蚊や蠅などの害虫はこの璧を怖れているかのように傍に寄せつけない力があると言われていました。

その後、「和氏璧」は楚の文王から代々に伝えられて、四百年も経ちました。この四百年の間に、楚国に大きな変化があり、国土が広がり、軍事力の強大な国になりました。そして約紀元前330年頃、楚に威王が即位しました。

(続く)

“わりい”は、いつでも新入会を歓迎しています。
新年度(4月)入会年会費：1500円 入会金なし
郵便局振替口座:00180-5-134011 ‘わりい’
途中入会申し込みの方は、入会時期によって割引がかかりますので、下記へお問い合わせください。

‘わりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。入会されると

- ①年10回おたよりをお送りします。
- ②‘わりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100(事務局)

- ◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。
- ◆町田各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

蘇州の華は、やはり園林であろう。「江南園林天下の甲、蘇州園林江南の甲」といわれるほどである。古くは五代十国(907年～960年)のころから明、清まで長い間に数々の名園が地元の大商人や官僚によって競い合うように造られていった。現在は数十か所と言われているが、明清時代には200を超えるほどあったという。

私の手元に中国で買った、「蘇州園林写真集」(2002年出版)がある。この本は、日本人の吉川功という建築家であり、日本庭園などを長年研究された方が出版されたものである。この方は特に蘇州の園林に魅せられて長年現地に赴き、研究されてきた。その本の序に蘇州園林の魅力が書かれているのでその一部を紹介したい。

――〈園林の母体は当然自然美にあるが、その自然を写すだけでは決して高度のものには発展しない。蘇州の文化人達は、城内外に営んだ邸宅の中に、自分の理想の自然を構築した。それは、人の心を通して練り上げられた崇高な芸術作品であり、美の別世界ともなった。特に、園林建築と池水、築山、花木等をいかに調和させるかという点において、蘇州園林は一段と傑出している。自然美をも超越した人の理想の世界、蘇州園林がここに創造されたのであって、それは無声の詩、立体的な絵画ともいえるものであった。私は、この園林美を何とか写真で表現しようと長年努力してきたが、それは思っていたよりも困難な作業であった。深く各園林の隅隅まで知ることが重要であったし、私の専門である日本庭園とは、また別の捉え方が必要であったからである。しかし最近になってようやく私なりに園林美を捉えることができるようになってきたと思う。特に蘇州園林独特の光の変化などに、たまらない魅力を感じるようになった。〉

蘇州園林は、私はどの庭園も確かに美しく素晴らしいと思うものの、前々号(197号)に書いたように太湖石と四阿などを配した庭園はどうも落ち

着かないと書いた。太湖石はどう見てもセメントで造った人造石のように感じられ、とても太湖から引き揚げてきた石とは見えないのである。この太湖石について、司馬遼太郎は「中国・江南のみち」の中で次のように書いている。

――〈長江デルタ地方には、遊水湖として、太湖がある。太湖の底から、奇怪な形をした太湖石が出る。おそらく宋末か明代からであろうか、それを庭園につかうことが流行した。権力のある者、富める者は、あらそってそれを庭園に配置した。怪奇の形相が人をおどろかす石ほど珍重され、それを庭に置くことが権力と富の象徴のようにもなった。最初はおそらく一つか二つ置いてその奇をたのしんだにちがいないが、しまいには庭園じゅうにその白い化物のような石を林立させ、いわば美学以外の情熱を充足させるようになった。〉

私には、これが率直な印象と思える。また各園内の建物のほとんどの屋根は先が反り返っていて、龍が飛び跳ねている印象である。やはり私は日本人だからか、日本の寺院のおだやかな傾斜の屋根と自然石や池水、それに水面に手を差し伸べるような松の姿を見ると心が落ち着いてくる。庭の文化も中国からの影響を受けたはずであるが(司馬遼太郎は日本式の石庭[枯山水]は太湖石をあしらった庭園の影響ではないか、と書いている)、なぜ両国の庭園はかくも違ったものになったのであろうか。ちなみに太湖石の取れる太湖であるが、中国で4番目に大きい淡水湖である。約2400km²あり、琵琶湖の約3倍もある(1番大きいのは青海湖)。この湖は旧暦の9月13日には太陽と月が同じ大きさで太湖に並ぶ「日月同観」という奇観が見られるそうである。私は太陽が西に沈んだ時、満月が東の空から昇りはじめると思っていたのだが……。錢塘江の逆流現象といい、これといい、広い国土にはいろいろな自然現象が起きるものだ。どのような現象なのか見てみたい。横道にそれだが太湖石は太湖のどのあたり

でどのように形成され、そしてクレーンのない時代
どのようにして取ったのであろうか。

今号は有名な園林毎に風景の特徴や美しさを書
こうかとも思ったが、浅学菲才の私にはどの庭園も
同じような造りに見えて筆が進まない。園林の美し
さの紹介は、前述の吉川氏の序文を参考にしてい
ただきたい。太湖石については、吉川氏の見解はこ
の写真集にはないが氏の見方を聞いてみたいものだ。

四大名園とは、「拙政園」「留園」「獅子林」「滄浪
亭」であるが、それに「網師園」「環秀山荘」「芸圃(げ
いほ)」「藕園(ぐうえん)」「退思園」を加えた九つの
庭園が、1997年に世界遺産に登録された。では
一つずつ紹介しよう。

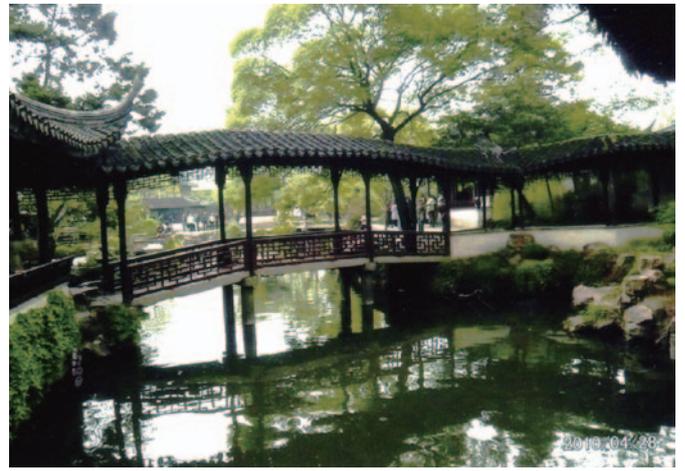
✿ 留園

清代の庭園様式を今に伝える名園といわれ、規
模は比較的小さいが蘇州四大名園であり、中国四
大名園でもある。中国四大名園とは、「頤和園(北
京市)」「避暑山荘(承德市)」「拙政園(蘇州市)」そ
して留園である。だれがどのような判断で四大名
園と決めたのか知らないが、いずれも世界遺産に
登録されている。この中で私は留園だけはまだ訪
れたことがないが、他の三つの名園に伍して選ば
れているのは立派である。

留園は、16世紀の明代に役人の徐時泰が造園し
「東園」としたのが始まりである。その後18世紀末
の清代に劉恕という人が荒れ果てていた東園を整
備・拡張し「寒碧山荘」と改称した。劉恕が復元し
たので一般に「劉園」と呼ばれた。さらに19世紀清
の光緒年間に、湖北省の布政使であった盛康が大改築
し名称も劉園と同音の「留園」と三度目の改称を行
った。しかしその後またもや日中戦争の影響で軍隊
が馬を養う場所にまで成り果てたが、中華人民共和
国成立後に蘇州市政府が引き継いで現在の姿にし
た。何度も荒廃の憂き目に遭いながらも、不死鳥の
如く蘇ったわけである。度重なる拡張や大改築で最
初の東園の名残りは留めているのであろうか。東園
時代の庭の姿を見たい気がする。

✿ 拙政園

何と言っても蘇州一の園林であり、前述のよう
に中国屈指の名園でもある。造園は16世紀初頭の



小飛虹〈拙政園〉

明代。中央(北京)の高官であった王献臣が失脚後、
蘇州に戻り大宏寺に造った庭園である。拙政の名
称は、西晋時代を代表する文人である潘岳(247
年～300年)が詠んだ「閑居賦」の一節、「拙者之
為政〜」(「愚か者が政治を行っている」の意)から
取っている。拙政とは「まずいまつりごと」の意味
で庭園の名前につけるような言葉ではないが、お
そらく中央政界を失脚した怒りをぶつけたように
私には思われる。

なお拙政園の写真について簡単に紹介したい。こ
の屋根つきの橋の名前は、「小飛虹」という。拙政園
を紹介するガイドブックにはしばしばこの写真が掲
載される。この橋は「香洲」という画舫(屋形船)に
似せた建物のそばにある。香洲は仙人たちが住む
島に旅立つ船をイメージしている。小飛虹から前方
の池を見ると、漕ぎ出す大海原を想像させるのだと
か。作庭にあたっては神仙蓬莱思想が背景にあるら
しい。

✿ 獅子林

造園は、元代1342年である。名前の由来はこの
園林にある太湖石がライオンに似ているからとい
う。園内に「九獅峰」と呼ばれる太湖石があるが、こ
の石から獅子林と命名したのかどうかは分からな
い。この九獅峰は九頭の獅子がいるように見えるこ
とからその名が付いたとのこと。私にはどうみれば
九頭になるのか、どうもこじつけのような気がして
いる。これで思い出すのは、大連の老虎灘にある8
頭のトラの大きな石像である。こちらははっきりと
8頭を数えられる。

園内はよくこれだけ集めたものだと感心するくらい太湖石があって迷子になりそうである。そしてあちらこちらにライオンが立ち上がったように見える石がある。またこの庭園にも石舫という神仙蓬莱思想を具現した屋形船のような建物がある。中国の長い歴史を感じさせる瞬間である。頤和園にもあったような気がするが、日本にはこのようなものは見たことがない。

この庭園には、「真趣亭」という建物がある。前に



観瀑亭(獅子林)



どこを見ても太湖石だらけの獅子林



滄浪閣。運河と外堀に沿った回廊

(web「アジア写真帳」から転載)

池がありこの建物から康熙帝・乾隆帝が庭を鑑賞されたという。両皇帝は他の園林も見られたであろうが、このような建物はここだけのようである。「真趣」と乾隆帝が書かれた大きな額が思い起される。

ネットを見ていると、獅子林は日中戦争時代、日本軍の軍営として使用され抗日中国人が処刑された場所でもあると聞く、とあった。この庭園は2度行ったが中国人の友人やガイドはそのようなことは教えてくれなかった。事実なら心に刻んでおくべきことである。

✿ 滄浪亭

五代十国の呉越の広陵王の銭元僚が956年に造営した、蘇州の園林ではもっとも古いものである。滄浪亭の滄浪を辞書で引くと、①あおあおとした浪、②湖北省を流れる漢水の下流域の古称、と二つの意味が記載されているが広陵王はなぜこの名称にしたのであろうか。私は「滄浪」と聞くと、連想するものがある。それは神奈川県の大磯にある初代総理大臣・伊藤博文の別荘の「滄浪閣」である。この建物の名前の出典は、楚辞^{注1)}の中にある屈原^{注2)}の「漁夫」からである。その中の「滄浪之水清兮、可以濯吾纓(冠のひも)、滄浪之水濁兮、可以濯吾足」から採ったものだ。屈原といえば同じく楚辞の中の、憂国の情を以って王を諫める賦「離騷」を思い浮かべるが、それと共にこの漁夫は知られているのではないか。漁夫については紙幅の関係で次号で紹介したい。

(つづく)

■ 注記

1) 楚辞: 戦国時代(BC475年～BC221年)の楚の地方で詠われた詩の様式。1から17まであり、「離騷」(三百七十五句から成る中国最長の抒情的叙事詩)は1番目、「漁夫」は7番目である。

2) 屈原:(BC343年頃～BC277年頃) 戦国時代末期の楚の政治家、詩人。楚の王族として今の湖北省・屈坪で生まれた。清廉な人柄であったと言う。楚の懐王の信任は厚く、三閭大夫として活躍したが、中傷に遭って遠ざけられた。その後、懐王の後を継いだ頃襄王の時、またもや讒言に遭いついに遠く江南の地に流された。真っ直ぐに正義を貫こうとした彼は、絶望のあまり「汨羅(べきら)の淵」に身を投じた。

Xué ér bù sī zé wǎng
学而不思则罔。まな おも すなわ くら いせい
学^{まな}びて思^{おも}わざれば則^{すなわ}ち罔^{くら}し。〈為政第二〉うえだ あつ お
桜美林大学名誉教 / 孔子学院講師 植田渥雄

孔子は、何をさておいても「学ぶ」ことを重んじる人でした。『論語』には次のような言葉もあります。「吾^{われ}かつて終日^{くら}食^{いぬ}わず、終夜^{いぬ}寝^{いぬ}ず、以て思う。益なし、学ぶに如かざるなり」(衛霊公第十五)。自分はかつて寝食を忘れて日夜一人で考えぬいたことがあるが、何の役にも立たなかった。やっぱり先人から学ぶに越したことはない、という意味です。

この場合の学とは人から教わったことをそっくりそのまま真似るということでしたね。人から学ぶことこそがあらゆる知識と文化の基礎になると孔子は考えていたわけですが、かといって人真似をすればそれで事足りるというわけではありません。

そこで出てきたのが表題の「学而不思则罔」(学^{くら}びて思^{くら}わざれば則^{くら}ち罔^{くら}し)です。ここで言う思とは「自分の頭で考える」ということです。罔は網と同義で、頭に網がかかったようで目の前が暗いということ。つまり、人真似ばかりで、自分の頭で考えることをしなければ何事も正しく見極めることができないということです。

ところで、思について孔子は九思 Jiǔ sī という言葉を使っています。思は九つの種類に分けられるということです。その中から二三拾い挙げると、「視思明, 听思聰 Shì sī míng, tīng sī cōng」(視るには明を思い、聴くには聡を思う)(季氏第十六)というのがあります。

これは見聞きしたことを的確に把握しよう

と思う、ということです。単に視聴覚が優れているという意味ではありません。物事の本質を見極めるよう心掛けるという意味が加わっています。現在一般に使われている「聡明」という言葉はここからきています。「聡明」とは言うまでもなく「知性の働き」を表わしています。

このほか、「疑思问 Yí sī wèn」(疑いには問を思う)というのもあります。疑いがあれば問^{あやう}い^{あやう}ただすことを思う、という意味です。これも今日使われている「疑問」のもとになる言葉ですが、現在とはやや異なり、疑いを「問^{あやう}い^{あやう}ただす」、疑問を「究明する」というのが本来の意味でした。これも知性の働きを表わす言葉で、現代の「科学する心」に一脈通ずるものがあります。

さて、話をもとに戻しましょう。この表題の後には、「思而不学则殆 Sī ér bù xué zé dài」(思^{あやう}うて学^{あやう}ばざれば則^{あやう}ち殆^{あやう}し)という言葉が続きます。自分の頭で考えることも大事だが、だからといって先人の知恵から学ぶことをおろそかにすると、危ない。これは現代人に対する警告の言葉と受け取ることもできます。

孔子は物事を「正」と「反」の両面から考える人、つまりパラレル(対比的)な思考の持ち主でした。この対照的な二つの文句に、その特徴が端的に表れています。これこそが孔子の真骨頂と言ってよいでしょう。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会・講師)

詩人^{いんせりん}尹世霖の童詩の世界⑧

家族 I 金子總子・訳

shuǐ guǒ fēn gěi dà jiā chī
水果分给大家吃

yī èr sān sì wǔ liù qī
一 二 三 四 五 六 七、
xiāng jiāo píng guǒ shì zi lí
香蕉、苹果、柿子、梨。
sì wǔ liù qī bā jiǔ shí
四 五 六 七 八 九 十、
shuǐ guǒ fēn gěi dà jiā chī
水果分给大家吃。



果物わけてみんなで食べる

ひとつ ふたつ みっつ よっつ
いつつ むっつ ななつ
バナナ りんご 柿 と 梨

よっつ いつつ むっつ ななつ
やっつ ここのつ とお
果物 分けて みんなで 食べよ



xiǎo mèi měi bù měi
小妹美不美

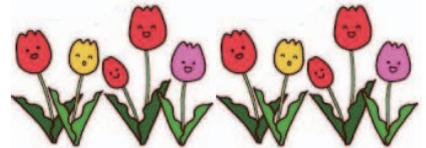


yǒu wèi xiǎo mèi mei
有位小妹妹，
zhǎng de shí zài měi
长得实在美……
liàng liàng dà yǎn jīng
亮亮大眼睛，
wān wān liǔ yè méi
弯弯柳叶眉，

bái bái guā zǐ liǎn, xiǎo xiǎo yīng táo zuǐ
白白瓜子脸，小小樱桃嘴……
āi ya xiǎo mèi mei
哎呀小妹妹，
kū shēng xiàng dǎ léi
哭声像打雷……

bì zhe yǎn zhòu zhe méi
闭着眼，皱着眉，
zāng zhe liǎn liě zhe zuǐ
脏着脸，咧着嘴……

qǐng wèn xiǎo péng yǒu
请问小朋友，
xiǎo mèi měi bù měi
小妹美不美？



妹は美人かな？



妹がいるよ
ほんとうに美人だよ
キラキラと輝く大きな目
柳の葉のような三日月眉

瓜ざね形の白い顔
さくらんぼのような可愛い口……
アレー 妹は
泣き声がまるで雷が鳴るようだ
目をつぶり
眉をしかめ
顔を汚し
口をゆがめ……
ねえ みんな
妹は美人かな？





近頃もいろいろな交流と体験がありましたが、今回は私と漫画本について書こうと思います。

来日してから電車に乗った時に、車内では座っている人でも立っている人でも漫画を読んでいる人を多く見かけました。

レストランや食堂、温泉でも漫画の本がいっぱい置いてあり、それを読んでいる客も多く見かけました。日本人は漫画を読むのが好きなのだと感じました。でも私はそれを読もうとは思いませんでした。何故かという漫画本は子供の読み物だと思っていました。でも、あるきっかけで私も漫画本を読み始めて、今は漫画本が大好きになりました。

去年の9月のことですが、三沢の古本屋で「北宋風雲伝」第3巻を一冊手に入れました。中国のことについて書いてあるから、わりと分かりやすく、ついついその面白い内容に引かれて3回ぐらい読み返しました。途中からだだったので、初めの方も読みたいと思って、町の本屋さんを通して、第1巻、第2巻を注文しました。

あとで分かったのですがそれは少女漫画でした。自分は知らないうちに少女漫画を読んでいたのです。少女漫画ばかり読んでいると、変な言葉遣いを覚えておかしくならないかと心配し、次は違う漫画を読もうと思いました。ある休みの日、自転車で三沢にある古本屋へ出かけました。中をゆっくり見て回っていたら、「三国志」の漫画を発見しました。中国の有名な歴史小説がどのように書かれているか興味がありました。そこにあった5巻まで全部買いました。

家に帰って読んでみると、内容は以前の少女漫画と一変しました。少女漫画は比較的繊細で、私にとってはやや可笑しいと感じ、三国志の漫画は割に粗野で血腥いと思います。会話の中で登場人物は「だべ」

を使っていました。これは今の私には一番相応しいのではないかと思います、5巻全部を一気に読みました。

この「三国志」は全部で10巻なので、あとの5巻も手に入れたいと町の友人に話したら、ある日、友人の車で一緒に八戸市内を回ってくれました。次から次へと八戸だけでも七、八か所ぐらいの古本屋を回り、第6、7、8巻を手に入れる事ができました。

その日のうちに今度は十和田市内の二か所の古本屋を回って、やっと9巻を手に入れました。友人には大変ご迷惑をかけました。本当は本屋さんで一度に揃えることができればいいのですが、ちょっと古い本だからなかなか揃えることが出来ないのです。残りの第10巻は町の本屋さんを通して注文したら、在庫がなくて品切れになっているそうです。ちょっと残念でしたが、これから古本屋で第10巻を見つけるのが楽しみです。

この前、東京で研修の時、外国人の日本語学習法の一つは、漫画を読むことだと教えられました。最初、漫画を読んだときは分からない言葉がかなりあり、よく辞書で調べていました。でもだんだん辞書に頼らなくても、内容が大体分かるようになりました。日本の漫画は画風が精美で、言葉の表現が精練されて、漫画を鑑賞すると同時に、日本語が知らず知らずに覚えられます。



中国語講座にて

「鄧さん頑張る・日本探検記」は、2004年(平成16年)から2006年(平成18年)の2年間、青森県六戸町の国際交流員として国際友好活動にかかわった、中国山西省太原市に住む一中国人・鄧仁有さんの日本体験です。文章は原文のままです。

倭・大和から日本へ

陽光新聞社・顧問
塩澤宏宣

先日来日したグルジアのマルグベラシビリ大統領は、安倍首相に国名をグルジアから「ジョージア」と呼ぶよう要請しました。

なんで? と思い調べてみるとグルジアは旧ソ連に組み込まれていましたが、1991年に独立し、それ以来両国は犬猿の仲だそうです。グルジアはロシア読みだからジョージアと呼ぶことに決めました。グルジアはGeorgiaと書きますから、なるほどジョージアと呼べます。スペルはアメリカのジョージア州と同じです。

外務省の公式サイトでは、
いまだグルジアとなっています

ですが、安倍首相は今国会で正式にジョージアとすることを約束したようです。そのジョージアは黒海に面し、北はロシア、西はトルコと接している小国です。特産品はワインで、世界最古の生産地といわれています。

旧ソ連の独裁者スターリンの出身地として有名です。そのほか旧ソ連時代のシュワルナゼ外相が独立後の初代大統領になったことを記憶しています。

前置きが長くなりましたが、私が上記の記事を読んだとき、ふ〜っと頭に浮かんだのが、本題の「倭・大和から日本へ」というテーマです。本棚から「日本の誕生」(吉田孝著：岩波新書)を取り出して拾い読みしてみました。

✿万葉集の山上憶良の歌について

「去来子等 早日本辺大伴乃 御津乃浜松 待恋奴良武」(いざ子ども 早く日本へ 大伴の 御津の浜松 待ち恋ひぬらむ)。

ここではなぜか日本を「ヤマト」と読む。「大和」でいいのではないかと筆者は問う。倭国名は古くか

ら「やまと」であり、邪馬台国の邪馬台までさかのぼる。つまり倭も日本も和訓は「やまと」であり、地域名は757年ごろから大和と書くようになっていた。

701年は大宝元年、大宝令が制度化して年号制度ができた最初の年。以来、今日の平成まで年号は続いている。その翌年、つまり702年(大宝二)、粟田真人を主席とする遣唐使船が中国の楚州塩城県(長江河口の北)に漂着した。通報を受けた県の役人が取り調べに当たり「どこから来た?」の問いに、「日本から来た」と答えた。役人にとっては「日本」は初耳だ。やがて取調べが進み、「日本」はこれまでの倭国に近い東方の島らしい、となった。いままでの倭が日本に代わったとは思わない。なぜなら中国では国名ではなく、「魏」とか「漢」といった王朝名であり、革命で王朝が代われればクニの名も変わるのが習慣だ。あるいは役人は、倭国が日本国に滅ぼされたと考えたかもしれない。

ともあれ、遣唐使・粟田真人は、「日本」という国号を中国皇帝に認めさせることに成功した。時の中国皇帝は、中国史上唯一の女帝・則天武后。武后は遣唐使を長安の大明殿の宴に招待した。旧唐書・日本伝は、そのときのことを特筆して「真人好んで経史(経書や史書)を読み、文をつづるを解し、容姿温雅なり」と賞賛している。真人は、かつて道観と名乗った僧侶であった。留学僧として唐で学び、帰国後に還俗して大宝令の編纂に参画していたので語学にも堪能であったと推察される。「日本」を承認させた立役者は真人のお手柄といえよう。ではなぜ「日本」なのか。

「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す、恙無きや」

聖徳太子が遣隋使に託して隋の煬帝に渡した有名な国書である。煬帝はこれを無礼として怒ったといわれるが、倭国王が「天子」と称した点を怒ったのであり、「日出処・日没処」の優劣には関係ない。古代より日本人は日が昇る情景を崇拜してきたことは「記紀(古事記・日本書紀)」からも強く理解できる。伊勢神宮も日が昇る方角、つまり東を尊ぶ。

仏典には「日出づる処は是東方、日没する処は是

西方、日行く処是南方、日行かざる処是北方」とあり、優劣の意はない。当時の倭は国号を定めるとき、中国との関係、すなわち「西」の中国に対する「東」の日本、を基軸にしたのである。唐の皇帝から冊封（朝貢して属国になることを願い、その身分を保証してもらう）を受けないで、あくまで独立国「日本」を貫いた朝廷も、中国との関係を基軸にして世界を見つめていたのである。

中国の史書では、「隋書」までは倭国と記載されているが、それ以降「宋史」からは日本となっている。

✿マルコポーロの「ジパング」について

ジパングは日本(ジツポン)になる。「日」は呉音ではニチ、漢音ではジツ。「本」は呉音・漢音ともホンという。慣用でジッポンと発音されていたところからジパングとなったようだ。イエズス会の辞典にはニホン・ニッポン・ジッポンの三つの呼称が併記されている。

あくまでも私見ですが…、大化の改新の時期は、国の形が整ってきた時期といえると思います。大宝令は天皇制とともに、中央集権国家としての体裁が整い、それは明治期まで続くことになったのではないのでしょうか。日本人が「国」という概念を意識したのは「元寇の乱」である、という説があります。

司馬遼太郎さんとドナルド・キーンさんの対話集で読みました。言うまでもなく、初めて外国が攻めてくるという事態になって「国と国」という意識が芽生えたといえましょう。

国の統治について日本では、天皇は主に神祠をつかさどり、政治・軍事などは幕府が執り行うという、一種の分業体制も日本独特の誇るべき制度ではないのでしょうか。英国もそうですね。多くの外国の大統領制では、法と国民がよほどしっかりしていなければ、独裁を招きます。

中近東では大統領がアラブの春で失脚しましたが、アフリカや中央アジアには未だに大統領という独裁者がたくさんいます。また、大統領と首相、

あるいは党主席と行政府の首相が政治を分担する国もありますが、よほど両者が善人で相互理解がなければ内紛を招きかねません。

最後にひと言、申し添えますが…。「東アジア世界と日本」(歴史教育者協議会・編)によりますと、網野善彦氏は「日本の国号のことを歴史教育で扱っていない」と問題提起しています。また東野治之氏も「一般にはジャパンという称の由来が“日本”にあることさえ、十分に認識されていない」と指摘しています。

これで思い出すのが「シナ(支那)」のことです。現在は使用禁止(自主的か?)になっていますが…。元々インドで中国を「秦」と言っていました。「秦」をChin(チン)またはChine(チーネ)と呼んでいたところ、中国人の僧侶が「支那(支=ささえる、那=国)」として唐へ持ち帰りました。その後のシルクロードによる東西文化交流によってヨーロッパにまで広まり、現在でも一般的に中国はChina(チャイナ)として使われています。漢字の意味するところからはすばらしいと感じますが…。

現在日本では、一部の限られた人たちが使っているだけですが、その歴史を知れば「日本→Japan」と「秦=支那→China」は同じことではないでしょうか？しかし、日清戦争以来、日本が中国に対して行った行為と連動したことにより魯迅など中国知識人の要望と、日本の行為を反省する立場から、中華人民共和国を「中国」して使用することにはやぶさかではありません。

【'わりい'の原稿を募集しています】

'わりい'は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。又'わりい'の活動についてのご希望やご意見及び'わりい'に掲載の記事などについても、簡単な感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル 'わりい'

フィリピン滞在記 ①---バギオの日系人社会を訪ねて

為我井輝忠

フィリピンに来てすでに2か月が経った。10年ほど前に一度旅行でマニラ周辺を訪れたことはあったが、しかし、今度はいささか異なる。日本語を教えるという目的があり、長期の滞在である。赴任地はマニラから北に260kmほど離れたサン・フェルナンド(San Fernando)というところである。

今回は赴任してからしばらく自由な時間があつたので、何か所か旅行に出かけてみた。そのひとつは前から訪れてみたいと考えていたバギオ(Baguiο)である。ここは1500mの高地で、フィリピンの他のところが灼熱の熱帯の地でありながらも、ここは日本の10月中旬くらいの気候で、大変凌ぎやすい避暑地である。夏(3月~5月)は政府がここに移動してくるそうだ。ちょうど日本の軽井沢のような雰囲気を持つ

ていて、朝晩は寒いくらいであった。

バギオを訪ねてみたいと思った理由のひとつに、ここには戦前からたくさんの日本人が住んでいて、今もその子孫である日系人がおられるということにあった。昭和初期に日本から大勢の人々がフィリピンに来て、その多くがバギオやその近辺で農業や材木業などに従事していた。最初は季節労働者としてやって来たが、次第に移民として定住し、多くの男性が現地のフィリピン女性と結婚した。

ところが太平洋戦争が始まると、日本軍のフィリピン占領が始まり、多くの都市や町が破壊されていた。最初は日本軍の優勢が伝えられたものの、戦争末期にはアメリカ軍の猛攻撃により劣勢となり、山中や高地に逃げて行った。その際、日本軍は現地の日本人やその家族を連れて移動していたために、多くの民間人が犠牲になった。日本軍と一緒に行動できず、取り残された人々も多くいた。彼らは日本軍のスパイと間違えられたり、捉えられた日本軍捕虜の通訳に駆り出されたりした。

戦争が終わると、日本人は強制的に日本に送還されたが、彼らの妻や子供は一緒に行くことはできずに、フィリピンに取り残された。残された人々は日本人であることを隠して生活しなければならなかった。



1930年代バギオにあった日本人経営の商店(当時の写真)



アボン(日比友好親善会館)の建物



2人の日系人女性と記念撮影(左から2人目が筆者)



日本人墓地納骨堂

そのような状態は終戦から30年以上も続いた。悲惨な状態の日系人を援助しようとして日本から一人のカトリックのシスターがバギオにやって来た。彼女の名前はシスター海野(うんの)(1911～1989)といい、1972年(昭和47)に初めてフィリピンを訪れた。もちろん最初から日系人を探し出すという目的があった訳ではないが、偶然バギオへ行く途中で現地の方から彼らのことを教えられ、彼女の運命を変えるような大きな働きをすることとなった。

シスター海野のことについてはフィリピンに来るまで全く知らなかった。1か月程前に『バギオの虹ーシスター海野とフィリピン日系人の100年』(鴨野守著、アートヴィレッジ、2003)という本で彼女のことを知り、ぜひバギオに行き、彼女の足跡と日系人の方々に会いたいという思いを抱くようになった。それが図らずも11月1日に実現することとなった。

バギオには「北ルソン日比交流協会」という組織があり、「アボン」(小さな家、という意味)なる日比友好親善会館がある。もちろんこれらはシスター海野の働きによって結成されたもので、バギオに到着後

ここをまずは訪ねた。予告なしの初めての訪問にも関わらず、スタッフの方々が快く迎えてくれて、この会館やシスター海野のことについて説明していただき、また何人もの日系人の方々に紹介していただき、改めてバギオの日系人社会の一端を知ることが出来た。

翌日は日本人墓地へ案内して下さった。バギオ公共墓地の一部に日本人墓地がある。そんなに大きくはないが、この地で亡くなった方々の墓石が何十と立ち並んでいた。その一角にシスター海野の墓がある。小さな十字架の形をした墓石にはいつも花が手向けられ、常に人々の手で守られていると感じた。特に私が訪れた時はマニラ日本人学校の生徒たちも訪れていて、たくさんの花を供えて、墓石の文字が見えないほどであった。このような子供たちが彼女のことを知る機会となったことをうれしく思う。



花で埋もれたシスター海野のお墓

バギオ郊外には「ベンゲット・ロード」と呼ばれる道路がある。この道路は統治者がスペインからアメリカに代った1900年初頭にアメリカ人が開発を始めたが、その建設に携わったのが数千人もの日本人労働者であった。中国人を始めフィリピン人やその他の外国人労働者も多く働いたが、際立って働いていたのは日本人労働者であった。これを機に日本から大勢の移民がフィリピンへ、特にバギオへやって来た。ここからフィリピンでの日系人の歴史が始まった。

しかし、太平洋戦争勃発と戦後の苦難の歴史を経て、日系人たちの苦勞に満ちた生活が続き、やっと苦難に満ちた生活から解放されたのもシスター海野の大きな働きがあったからである。改めて彼女の業績に思いを馳せた。改めて、もっと彼女のことを知りたかったと思った。

(続く)

竹馬に乗った釣り師

赤岡健一郎 (日本スリランカ武道協会
日本スリランカ文化交流協会)

スリランカは日本と同様に四方を海に囲まれた島国です。この海には豊潤な海の幸があり、スリランカの人達の栄養源となり食欲を満たしています。今回は、これらの魚を捕る伝統的な漁法の一つを紹介しようと思います。その漁法の名前はストルト・フィッシング (Stilt Fishing) と云います。スリランカ南海岸の風物詩と呼ばれています。Stiltは竹馬という意味で、直訳すれば竹馬釣りになります。さて、みなさんは竹馬釣りという言葉から、どのような魚法を想像されるでしょうか？



竹馬漁師(ウィキペディアより)

大海原で竹馬を駆って魚を網に追い込むよう

な、勇猛果敢な漁法を想像された方もいらっしゃるでしょう。ところが、この漁法を先祖代々引き継いできた漁師達はノンビリ屋のスリランカの人達です。竹馬を駆って行く、このような積極的な漁法は思いつかなかったのでしょうか。ストルト・フィッシングでは、先ず竹馬となる一本の棒を探す事から始まります。この棒は長い程良いのだそうです。棒が見つかったら後は簡単、海岸より少し沖合に出て、ここぞと思った場所に棒を突き立て、足元を石等で固定させるだけです。そして、腰を乗せる台と足を乗せる台を付ければ準備完了です。漁船や漁網を購入する資金もいらぬし、海が荒れて設置してあった棒が流されても、もう一度棒を立てれば良いだけなので、漁師にとっては都合の良い漁法なのでしょう。

漁師達はあまり暑くならない朝と夕方に、釣竿を持って自分の棒がある場所まで海中を歩いて行きます。棒に登って台に座ると、魚が来るのをひたすら待ちます。ただ待つだけで、撒き餌を行う等の魚を呼び寄せる積極的な行動はしようとしません。す

る事といったら、同じように周囲の棒に座っている漁師仲間と話をする事ぐらいでしょうか。長い棒であるほど沖合に立てる事が出来るので、他の漁師よりは早く魚を見つける事が出来るので有利なようです。さて、魚が自分の棒の近くに来ると、釣竿を振

って針で魚を引っ掛けます。針に餌をつけて釣るのではありません。ただ近くにきた魚を引っ掛けるだけです。果たして、針で魚を引っ掛けるだけの事を漁法と呼んで良いのかは判りませんが、この場所に連れて行ってくれたウダヤ君に聞いてみると、魚は思いのほかよく釣れるそうです。スリ

ランカらしいと言えばその通りの漁法ですね。

何とも不思議な漁法ですが、確かに先祖代々この魚法で家族を養って来たのだから、これはこれで立派な漁法なのでしょう。しかも、いっぺんに大量の魚を捕る事はできません。無意識のうちに乱獲をしないで資源保護をして来たことも、自然と共に生きて来たスリランカの人達らしい漁法です。しかも、撒き餌を行わないので、食べ残しが海底に沈殿する事も有りません。

ストルト・フィッシングは、スリランカにも大きな被害をもたらした2004年12月のスマトラ島沖大地震&大津波以前はヒッカドゥワからマータラまでの南海岸一帯で見られましたが、現在ではストルト・フィッシングを行う漁師の数は減ったそうです。これは大津波の後で漁業を続ける事を諦めた漁師が多かったのが原因だと思われます。さらに、海外からの援助物資の中に、近代的な漁船・漁網等も含まれていた為に、漁船の船員に鞍替えした漁師もいた様です。それでも、ゴールから東へ30kmほどのとこ

ろにあるウェリガマという小さな町の周辺では、今でもストルト・フィッシングが行われています。

僕がスリランカに住んでいた頃から言われていた事ですが、ストルト・フィッシングを行っている漁師の中には悪質な人もいます。僕自身は見た事は有りませんが、外国人観光客が棒に取り付けた台に座って、漁をしているところを写真に撮ると、チップを要求してくる漁師がいるのだそうです。多分、最初の内は観光客がお礼にと思ってチップを渡していたのですが、もらう側は簡単に現金を得る事が出来るので習性化したのでしょうかね。最近ではチップ目当てに、魚を釣るフリだけをしている輩もいるそうですから、ストルト・フィッシングの見学に行かれる方はご注意ください。

ウェリガマにはもう一つの名所があります。町の西側沖合にあるタプロバン(Taprobane)と呼ば

れる小さな島です。島には植民地時代に立てられた瀟洒な邸宅があり、10年程前までは個人所有の住まいでしたが、その後改修されて現在では5部屋だけの小さなホテルとして営業しています。植民地時代と変わらない、砂浜と青い空、赤い屋根と白壁の邸宅を見ているとタイムスリップした気分になりますよ。写真を写すにも最適な場所の一つです。干潮時には砂州ができて海岸から歩いて渡る事が出来ますが、残念ながら宿泊客しか島に立ち入る事は許されていません。一層の事、このホテルに泊まってストルト・フィッシングの見学に出かけるのも面白いですね。

「Stilt Fishing」で検索すると、動画や写真をたくさん見つける事が出来ます。タプロバンについては、「Taprobane Island」又は「Villa Taprobane」で検索して下さい。

中国の笑い話 20 (「365夜笑話」より)

第52話：私は未だ目覚めていない

強強が外から壮壮を大声で呼んだ。

強強「壮壮！早く起きなよ。朝の体操に行く時間だよ！」

壮壮「強強、僕は行かない！未だ睡眠中だから！」

強強「睡眠中って、じゃ、なんで話が出来るんだよ！」

壮壮「えーっと……、そう、僕は未だ夢の中、夢の中で話をしているんだ！」

第53話：おばあちゃんは知っている

小虎は面白い夢を見た。おじいちゃんにその話がしたくて、仕事をしている祖父に話しかけた。

小虎「おじいちゃん、僕の夢の話してあげようか？」

祖父「おじいちゃんは、今、話を聞いている時間がないんだよ。おばあちゃんに話してあげなさい」

小虎「おばあちゃんは夢の中に出て来るんだ、だからもうこの話は知っているよ」

第54話：良い夢

夫「母さんや、私の眼鏡を持って来ておくれ！」



妻「今、夜中の3時ですよ。眼鏡を持って来て、どうするんですか？」

夫「今、とても良い夢を見ていたんだ。はっきり見えないところもあったんで眼鏡を掛けてもう一度見たいんだ」

第55話：話夢で周公に会う

私塾の教師がいた。学生達が授業中に居眠りをすると、教鞭で叩いて起こし、厳しく説教するのが常だった。ある時、学生が問題を解いている間に教師が居眠りをして、学生達に見つかってしまった。学生達は教師の周りに集まって来た。

学生達「先生、居眠りをしていましたね？」

教師「私は居眠りをしたのではない。夢で周公に教

えを請いに行っていたのだ」
それを聞いた学生達は、自分の席に戻って居眠りを始めた。教師がたたき起こすと学生達は言った。

学生達「私たちは、夢で周公に会いに行ってきたよ。周公は、あなたは来なかったと言っていましたよ」

(有為楠 訳)

昨年の「町田発国際ボランティア祭・夢広場」は、恒例の会場だったぼっぼ町田のイベント広場が改修工事で使えず、町田市民フォーラムの建物内での開催のだったが、二年ぶりにぼっぼ町田に戻ってきた。改修で広場の一角にコーヒーショップが開店し、我々の夢広場は随分小さくなってしまったという印象はぬぐえない。

広場へ下りる石段を観客席に見立てて、地面に敷いた敷物を舞台にして、馬頭琴やケーナの演奏があり、朝鮮学校の可愛い生徒さん達の踊りやフラダンスに、シャンソンの歌声も加わって、石段に座った観客ばかりでなく、多くの道行く人々が足を止めていた。中でも圧巻は、ベリーダンスだった。ふり注ぐ陽光の下で踊るベリーダンスはとても明るく健康的で、この時ばかりは、通りがかった人たちも皆立ち止まって見入っていた。

しかし、アトラクションで引き付けた人々が、どれだけ広場へ下りて来たかと言うと、その数は非常に少なかったように思われる。'わんりい'のテーブルに立ち寄ってくれた友人達が異口同音に、「テーブルの位置が雑然としていて、何処をどう歩けば良いのか分からなかった」と話していた。場所が狭くなったとは言っても、机の配置を工夫すれば、もっとす

っきりして、広場に下りてみようかと思う人も多くなったのではないかと残念に思う。来年の実行委員会の課題としてもう少し話し合っ

てはどうだろう。今年、'わんりい'は中国の龍井茶(緑茶)と茉莉花茶(ジャスミン茶)を小分けにして売り出し完売した。ラオスの少数民族・モン族の伝統の刺繍を施したポーチなどの小物も、「ラオス・山の子ども文庫基金」への活動支援で委託販売をし、多くの方々に喜んでいただいた。

今年の夢広場では、'わんりい'名物だったエスニック焼き鳥の販売は勿論、手作り月餅の販売も叶わず、夢広場での利益はささやかだった。が、その全額を、8月上旬に起こった雲南大地震教育復興義捐金として日本雲南聯誼協会への寄付金に加えた。

昼食時には、以前'わんりい'の料理の会でフランス人の留学生・サミラさんが教えて下さった北アフリカ料理のクスクスを

インに、モロッコインゲンの温サラダ、スリランカのコロッケとネパールのマサラティを組み合わせた夢広場ランチが用意された。題して「世界を味わおう、夢広場ランチ」。準備は大変だったのではないと思うが、とても好評だった。

今後に向けての反省点は沢山あったけれど、'わんりい'としては皆で協力し楽しく活動できたと思う。

(報告：有為楠君代)



西東京朝鮮第二幼初級学校の児童の踊り



インド・ラジャスタン地方の民族衣装で、出し物の司会をする国土館大学留学生の劉嘉琦さん



夢広場名誉実行委員長も今年の祭の目玉・夢広場ランチを召し上がった

雲南省昭通市魯甸県大地震への義捐金へのご協力、有難うございました

今年8月3日、四川省でも僻地といえる涼山彝族自治州に接した雲南省昭通市魯甸^{ルーディエン}でマグニチュード6.5の地震が発生し、現地は、昔ながらの日干し煉瓦の民家が多く、これらの住宅は壊滅的な被害になりました。被害もさることながら地震によって明るみになったことは、新華社通信社の記者の報告にも「地震は、ここの平穏な生活を打ち壊したばかりでなく、我々の眼をこの地の貧困と環境の劣悪さにも向けさせる」('わんりい' 9月号)との現地の状況もあります。

皆様にご協力いただいた義捐金を託す、認定NPO法人・日本雲南聯誼協会理事長の初鹿野恵蘭氏の雲南の子ども達への教育支援の動機も、1996年の雲南省麗江大地震被害地区で倒壊した建物に囲まれて暮らす貧困地域の子どもの姿を見て、安全な教育の場を提供したいという思いからとのこと。以来、

協会は雲南省少数民族への教育支援を続け実績を積み重ねています。初鹿野氏よりの、ご自身の実体験に基づいた、地震被害地域の子どもの教育復興支援の真摯な呼び掛けに応え、'わんりい'も'わんりい'メンバーと関係者各位の温かな気持ちを被災地復興支援として届けたいと募金活動の協力を皆様にお願いました。

11月の'わんりい'定例会で、定例会参加者の立会



日本雲南聯誼協会初鹿野理事長に義捐金を手渡す

いにより募金箱を開き、これまでのすべての義捐金を集計しました。皆様の温かな善意の気持は、郵便振替によるもの：71,000円、「夢広場」の収益金、「月餅の会」及び「バルト三国・講演会」講師料など'わんりい'活動関連：16,300円、カンパ箱へのご寄付：42,116円など総額で129,416円になりました。深く感謝申し上げます。

義捐金は11月20日、田井、有為楠、寺西の3名が認定NPO法人・日本雲南聯誼協会本部をお訪ねし、直接、理事長の初鹿野恵蘭氏に皆様の温かい志としてお届けしました。初鹿野氏より「お預かりいたしましたご寄付と皆さまの温かいお気持ちを、弊協会が責任を持って、必ず被災地の子どもたちの為に役立たせませう」との言葉を頂きました。

初鹿野氏は、今年10月、被災状況をご自分の目で確かめたいと被害地訪問を試み、被害地すぐ近くまで行きながら、道路復旧が終わっておらず被害地入りはできなかったそうです。が、今回の災害に関心をお寄せ下さった皆様に、その折に接した避難キャンプの人々の様子などを、寄付呼び掛けの責任者として報告したいとの申し入れを頂きました。幸い、2015年1月12日(祝)の町田市民フォーラム視聴覚室に空きがありましたので、「雲南省昭通市魯甸県大地震・報告会」開催を予定しました。'わんりい'12月号の掲示板、同封チラシで詳細をご覧ください、ご参加ご予定下さいますようお願いいたします。 (報告：田井光枝)



第17回町田発国際ボランティア祭・2014夢広場の'わんりい'のブースにも置かれた募金箱

まちださがみユネスコ協会主催「第4回留学生との交流弁論会」から その2

2014年10月12日、「さがみはら国際交流フェスティバル2014」の一環として、民間ユネスコ運動に取り組んでいる「まちださがみユネスコ協会」主催の「第4回留学生との交流弁論会」(留学生8名/玉川大学ユネスコクラブ員5名)が開催されました。12月号は11月号に続き、国土館大学の戴沢宇さんと鍾嘉辰さんのスピーチを紹介します。

日本の中華料理と本格的中華料理の違いについて

国土館大学・アジア21世紀学部3年 戴沢宇^{たいざわ う} (中国広東省深圳市^{しんせん})

みなさん、こんにちは。私は国土館大学21世紀アジア学部^{アジヤガク}に在籍しております。戴沢宇と申します。中国の広東省の深圳市から参りました。みなさん、深圳市は中国のどこにあるかご存知ですか。地図で見ると、中国の下のほうです。もっと簡単にいえば、香港の隣です。地下鉄で行ける距離です。

中国にはたくさんの料理がありますので、本日はこの飲食文化について発表させていただきたいと思

います。
私は食いしん坊なのですが、日本に来て、中国の料理を食べたいなあと思う時があります。そのような時に、日本の中華料理を食べしております。日本には中華料理の店がたくさんありますが、日本の中華料理と本格的な中華料理は何となく味が違うな、と私は思っております。

その一つ目は辛さであると思います。たとえば、みなさんがご存知の「担担麵」。中国人は辛いものが好きなのですが、特に、四川と湖南のほうは、そのような特徴があります。この担担麵は四川料理の中で有名な物の中の一つです。はじめて、日本の友達と一緒に中華料理を食べた時のことでした。日本の友達は一口担担麵を食べて、目を大きくしながら、「辛い!」と言いました。そして、私に「ちょっと食べてみてください」と言いました。しかし、私は少し食べてみて全然辛くないと思いました。その後で、何回か日本の担担麵を食べてから、ちょっと分かったことがあります。

例えば、日本の担担麵の方ですが、日本人の口に合

せるために、担担麵の辛さを下げています。それに、日本の担担麵はゴマ醬が入っています。中国に比べて、辛くないですが、日本の担担麵はゴマの香ばしさがあります。

では、中国の本格的な担担麵はどうでしょうか。みなさんがご覧のとおり、スープはまるでラー油スープのようです。中国の担担麵はそんなにゴマが入っておりません。ゴマの香ばしさの代わりに、ラー油の

香ばしさを特徴としていると思います。このラー油の香ばしさともちもち感の麵を組み合わせると、本当に最高だと思っています。

日本の中華料理と中国料理の違いの二つ目は、甘さだと思えます。私は日本の中華料理の店で初めて豚炒め定食を食べた時、びっくりしました。中国の豚炒めがそんなに甘かっただろうかと思いました。中国の豚炒めは「回鍋肉^{ホイゴウロク}」と言

いますが、甘いという印象はありません。やはり作り方の違いのを感じます。

それに、セブン・イレブンやスーパーで売っている肉まんも、ちょっと甘みがあります。最初、日本に来たばかりの時、この甘さに慣れませんでした。現在はもう日本で2年ぐらい暮らしていますので、おいしく感じられるようになりました。少しずつ日本人の味覚になったのかもしれませんが。

このように中華料理には、国によって味の違いがありますが、最後に、四川料理ではなく、私の故郷、広東省の有名な料理をみなさんに紹介したいと思います。それは「飲茶^{サムチヤア}」です。みなさんはおそらく聞いたことが



あると思います。「飲茶」は中国では早茶^{サオチャア}と呼ばれています。文字どおり、だいたい朝7時から11時まで、家族や友人と一緒に食べに行きます。種類は^{シヤアジヤオ}蝦餃(エビの蒸餃子)や^{シヤオマイ}烧麦(シューマイ)や^{チャンフエン}肠粉^注があります。私が今年2月に中国に帰った時も、2回ぐらいわざわざ食べに行きました。

本日、お話をさせていただいた「担担麵」「回锅肉」「飲茶」の事を考えると、中国と日本の食文化をミックスした料理がまたたくさん現れると思います。中国と日本の国際交流が互恵的に発展して、新しい料理の世界が開かれるのを、食いしん坊の私は願っています。

ここまで話して、私はちょっとお腹がすいてきました。みなさんはどうですか。時間があったら、是非、広東省にお越しください。本日の私の発表は以上です。ご清聴ありがとうございました。

■注：^{チャンフエン}肠粉

広州や香港の朝ごはんとしてよく食するビーフンの一種。筒状に丸めた形がブタの腸に似ていることから名付けられた。味がほとんど付いていないので、肉などの具を巻き込んだり、オイスターソースや醤油だれをかけたり、唐辛子味噌などを付けて食べる。

私と日本語の関係

国土舘大学・アジア21世紀学部3年 ^{しょうかしん}鍾嘉辰(中国広東省^{しんせん}深圳市)

私と私の日本語の関係は、日本語学習の段階と共に少しずつ変化しています。

中学校以来、英語が得意だった私は、日本語に全く興味を持たず勉強する意欲も起こりませんでした。親の勧めで仕方がなく日本語を専攻することにし日本語の勉強を始めたのですが、その頃は本当に辛かったです。覚え憎いカタカタや平仮名、訳の分からない文法、もう「うんざり」して何度も諦めようと思ったことがあります。

その後、日本に留学する機会を得て、日本に来ました。私は日本語があまり得意ではありませんでしたが、日本に来た最初の頃は、私は日本人の皆さんと日本語で話すことがとても嫌でした。時には日本人上司に仕事に関わる報告を口頭で伝えないといけない時もありますが、さんざん悩んだ末、やはり口で伝えるのをやめて、日本語を紙レポートに書いて上司に報告してしまった場合もよくありました。この時期は、上司や職場の同僚によく笑われて、私自身も自分の日本語にすっかり自信を失ってしまいました。

このような状態が続いて、なんでわざわざ日本まで来て日本語を勉強しているのか訳が分からなくなった時もありましたが、しかし、日本で生活し、大学に通い、毎日、日本語のTVニュースを見、

日々日本人友達と会話をし、いつの間にか知らないうちに日本語を自然に覚えて、日本語の曖昧な表現や表現の仕方の微妙な違いがよく分かってきました。日本語の環境の中にいる緊張から解放され、リラックスした雰囲気の中に入れられるようになりました。

日本語は、段々と私の友達となり、異国文化へ導いてくれるようになってきました。現在の私は、日本語がまだ十分でないことをもう隠そうと思いませんし、逆に日本語を話せる喜びを感じています。自分の日本語でどうどうと誰かと交流したいと思っています。そして、もっと日本語力を磨きたい気持ちでいっぱいです。

以上は、私と私の日本語の関わりの体験談です。御清聴、どうもありがとうございました。



劇団・東演の舞台劇「兄弟」を観て

崔貞

11月22日の土曜日、下北沢にある東演パラータという劇場で劇団東演の舞台劇「兄弟」を鑑賞しました。中国の小説家余華が2007年に出したベストセラー小説『兄弟』を元にした舞台劇です。劇団東演創立55周年記念のための第143回の公演になるとのことです。

この公演を知ったきっかけは、たまたま東京虎ノ門にある中国文化センターに行ったときに知り合った、プロの写真家小松健一さんから直接聞いたことによります。小松健一さんは『兄弟』のポスターなどに載せる写真を担当されました。私は上海文芸出版社出版の中国語版「兄弟」を読んだことがあります。この物語を日本語で演じる舞台劇を見る貴重なチャンスを逃すまいと思って早速チケットを予約しました。

『兄弟』という小説は、2008年に泉京鹿訳で文春文庫から日本語版が出ています。上下2巻、1030ページにも及ぶ大作です。上巻は文化大革命編で、下巻は開放経済編になっています。40年間の間に中国の社会体制が大きく変わり、この時代を生きた家族・兄弟のかかわり方も時代とともに凄まじく変化し続けています。血が繋がっていない宋鋼、李光という二人の異父異母の兄弟が激動の文化大革命を乗り越え、時に助け合い、時に背を向け合いながら、それぞれ違う運命をたどります。

下北沢にある東演パラータは100人くらいが入るこじんまりした小劇場で、観客の座席は舞台から非常に近く、舞台と一体の臨場感はなかなか得難い

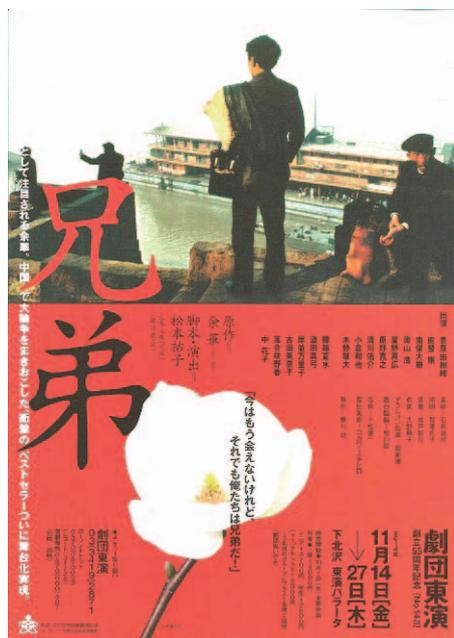


ものです。会場は観客で埋め尽くされていました。涙あり笑いありの2時間半の時間があっという間に過ぎていき、兄弟の純粋な情愛に感激し、私も含めてすすり泣きの観客も多くいました。時代のギャップの大きさに驚愕しながらも奥深い人間愛についての内容に大いに共感できたからこそだろうと思います。

公演終了後に主演の一人兄の宋鋼役の能登剛さんに声を掛けてみました。能登さんは中国語が大変堪能で、山東省に4年間いらっしゃったそうです。21年前に東演に入団してから数々の役をこなしてきました。2007年に劇団・東演が1か月掛けて中国の大連、長春や北京、上海、武漢を回って日中文化交流のために『臨時病室』と『恋でいっぱい森』の二つの舞台劇を中国で公演し大成功を収めました。

これからも劇団東演の活動を追って、また続きを書きたいと思います。これからもぜひ応援したいと思う劇団がこんな身近にあると知ってつくづく幸せなことだと感じています。

注：2枚の写真は劇団東演のホームページ <http://www.t-toen.com/index.html> から引用したものです。



小松健一さんの写真が使われた『兄弟』のポスター

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついで折に田井にお渡し下さい。

「第4回海老名ニューイヤーコンサート」

▶第一部：つま先と指先の驚異のコラボ(ピアノ&バレエ) ▶第二部：世界名曲へのお誘い

●海老名文化会館大ホール ●2015年1月17日(土) 16:00開演(開場15:30)

▲チケット：S席5000円 A席4000円

▲出演：小林沙羅(ソプラノ) / 薛皓垠(テノール) / 金井信(ピアノ) / 崔宗宝(バリトン)

■ゲスト：邱思婷(バレリーナ) ■西村萌玖夢(ヴァイオリン)

▲チケットなどコンサート問合せ：☎046-240-0836

▲崔宗宝音楽事務所 ▲共催：海老名市文化会館指定管理者



「烏里烏沙写真展—蔵地(チベット)印象」

‘わんりい’と懇意の写真家・烏里烏沙さんが、十数年間に数十回という訪チベットで撮影の、カラー作品約50点を展示。撮影者自身の故郷への思いを含め、一般の人が訪ねる観光地ではなく、チベットの世界の広大な美しい自然とそこで生きるチベット族の人々の明るい姿、厚い宗教信仰などを、独自の視点で撮影しています。

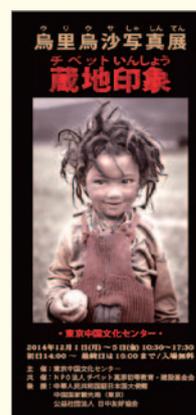
●東京中国文化センター(港区虎ノ門3-5-1 37森ビル1F)

日比谷線「神谷町」駅4番出口より徒歩約5分/銀座線「虎ノ門」駅2番出口より徒歩約7分

●2014年12月1日[月] - 12月5日[金] ●入場料：無料

●主催：東京中国文化センター ●共催：NPO法人チベット高原初等教育・建設基金会

▲問合せ：☎03-6402-8168 Fax:03-6402-8169 東京中国文化センター



◆わんりいの催し **ボイストレーニングをして日本の歌を美しく歌おう!**

あなたも私も笑顔が美しくなる! 身体の力を抜いて、気持ちよく発声しよう!!

◆動きやすい服装でご参加ください

▲まちだ中央公民館・6F視聴覚室

▲2014年12月9日(火)、2015年1月27日(火)

▲時間：10:00~11:30

▲7・8月の練習歌「おてもやん」

▲講師：Emme(歌手)

▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：15名(原則として)



◆申込み：☎042-735-7187(鈴木)

E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(田井)

◆わんりいの催し **中国語で読む・漢詩の会**

漢詩で磨く中国語の発音! 中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう!!



▲場所：まちだ中央公民館・学習室7

▲月日：2014年12月7日(日)/2015年1月18日(日)

▲時間：10:00~11:30

▲講師：植田渥雄先生
(現桜美林大学孔子学院講師)

▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：20名(原則として)

*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆申込み：☎090-1425-0472(寺西)

E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp(有為楠)

恒例! 'わんりい'新年会日取り決定!!

!!! 2015 'わんりい'新年会・シュワンヤンロウで新年を祝おう!!!

場所：麻生市民館・料理室(小田急線・新百合ヶ丘下車北口3分麻生総合庁舎内)

2012年2月8日(日) 11:00~14:00



●定員：先着40名('わんりい'会員と関係者のみ。お早めにお申込下さい)

●参加費：1500円(会場費 シュワンヤンロウ材料及び福引景品購入)

●申込：メール/wanli@jcom.home.ne.jp TEL/FAX: 042-734-5100

◆わんりいの催し

ルーツエン
雲南省昭通市魯甸県地震被災地を訪ねて **参加無料**

町田市民フォーラム3F・視聴覚室 2015年1月12日(祝) 14:30(開場14:00)～16:00

講師：日本雲南聯誼協会理事長・初鹿野恵蘭氏



被災者キャンプで被災者
の話を聞く初鹿野恵蘭氏

日本雲南聯誼協会理事長の初鹿野恵蘭氏は、現地の教育復興支援金募金実施に当たって、現地がどのような支援を必要としているか考察目的で10月現地を訪れました。

当時、被災道路が復旧しておらず、被災地中心部を訪ねることはできませんでしたが、被災現地にごく近い被災者キャンプを訪ね、被災者より直接現地の被害状況を伺いました。その折に撮影の写真を上映し現地の様子を紹介

するとともに、雲南省少数民族の教育支援を続ける初鹿野氏の、熱い胸の内をお話しして頂きます。

【当日のプログラム】

- ① 昭通魯甸地震の被害状況
- ② 10月の視察報告
- ③ 中国・雲南省からの東日本大地震支援について
- ④ なぜ日本雲南聯誼協会が支援するのか

●定員：28名

●問合せ：☎042-734-5100(わんりい)

E-mail:wanni@jcom.home.ne.jp



和光大学 レクチャーコンサート2014

【美しき音楽の庭】—古楽器によるバロック音楽の楽しみ

出演：アンサンブル雲水

演奏楽器：リコーダー/バロック・ヴァイオリン
ヴィオラ・ダ・ガンバ/チェンバロ

2014年12月19日(金)

18:30～20:30(18時開場、途中休憩あり)
和光大学ポブリホール鶴川(地下2階ホール)

- 受講料500円 ●定員200名(先着順)
- ▲お申込み方法：①氏名(フリガナ) ②〒・住所 ③電話番号を記入し、12月12日(金)までに下記へ
※申し込みは、電話、FAXまたはE-mailで申し込みを。

「和光大学企画広報係 大学開放センター」

TEL:044-988-1433 FAX:044-988-1594
E-mail:open@wako.ac.jp

初心者のための水墨画教室

〈鶴川水墨画教室〉体験のお誘い

来年の干支・羊を描いてみよう!

生徒のレベルと個性に応じた適切な指導を体験してみませんか。12月も、来年の干支を指導します。2015年の年賀状に手描きで羊を描いてみましょう!

- 講師：満柏(◎日中水墨協会会長)
- 場所：鶴川市民センター(駐車場有)
〒195-0062 東京都町田市大蔵町1981-4
- 曜日・時間：毎月第2、第4(月)
午後2:00～4:00
- 体験参加費：1000円
見学：無料
- 問合せ：野島 ☎042-735-6135



世界が相手の小唄名人 尺八・ソロ演奏ライブ

- 2014年12月6日(土)19:00～
- ムリウイ 〒157-0072 世田谷区祖師 4-1-22-3F
- 参加費：投げ銭制
- 問合せ：ムリウイ ☎03-5429-2033
E-mail:muriwui@cafe.email.ne.jp

【2014年12月の定例会とおたより発送日】

- ◆定例会：12月11日(木)13:30～ 三輪センター・第3会議室
- ◆新年号のおたより発送日：12月27日(土)10:30～ 三輪センター・第3会議室 ※お弁当持参ください

‘わんりい’ 199号の主な目次

北京雑感(90)北京の船旅……………	2
諺・慣用語(35)「 ^{ひそみ} 「 ^{なら} 響に倣う」……………	3
媛媛讲故事(69)「 ^{かしのへき} 和氏璧」Ⅲ……………	4
城市めぐり(38)「 ^{まな} 蘇州市」Ⅲ……………	6
論語断片2「 ^{まな} 「 ^{おも} 学びて思わざれば則ち ^{すなわ} 罔し」……………	9
詩人尹世霖の童詩の世界⑧……………	10
日本探検記(18)「私と漫画本」……………	11
倭・大和から日本へ……………	12
フィリピン滞在記①バギオの日系人社会を訪ねて……………	14
スリランカ(83)竹馬に乗った釣り師……………	16
中国の笑い話(20)……………	17
活動報告「2014夢広場」参加・報告……………	18
活動報告「雲南省魯甸地震・教育復興支援」報告……………	19
第4回留学生との交流弁論会(戴沢宇さん)……………	20
第4回留学生との交流弁論会(鍾嘉辰さん)……………	21
劇団・東演の舞台劇「兄弟」を観て……………	22
‘わんりい’ 掲示板……………	23・24

皆さま、お元気でよい年を迎えられますように!!